

火災ゼロ NEWS

安全で安心な暮らしをサポート!
火災予防に関する様々な情報をお届けします。

冬の暖房に欠かせないストーブ!火災を予防して暖かい冬を過ごしましょう!
～ Let's study! ～

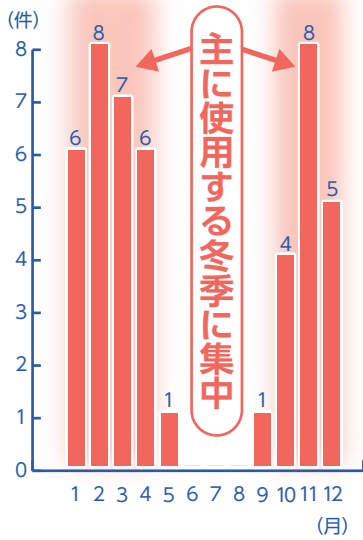
いざ! 防災

— 使える防災情報コラム —

日を追うごとに寒さが厳しくなっていくこれからの時季、ストーブ等の暖房器具は欠かせません。

本組合の2014年から2023年の10年間の火災統計を見ると、ストーブが原因の火災は46件発生しました。月別でみると主に10月から翌4月の冬季間に集中し、全46件のうち39件(84.8%)が住宅から出火しています。

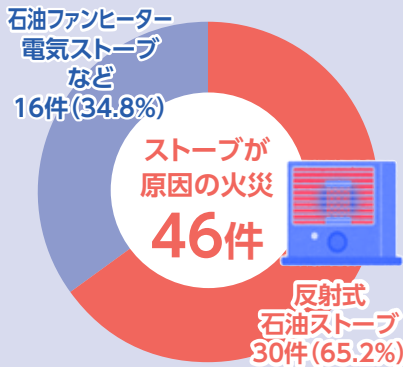
ストーブが原因の火災 46件



ストーブが原因の火災件数を発火源別にみると、反射式石油ストーブが46件中30件と6割以上を占めています。

反射式石油ストーブは点火や燃焼に電源を必要としないことから、屋外や災害時など幅広いシチュエーションで使用できます。一方で構造上熱源が完全に覆われていないため熱を周囲に伝えやすく、衣類などの可燃物が接触することで火災になってしまう危険性もあります。

次の火災事例を参考に使用上の注意点を今一度確認し、安全にストーブを使用しましょう。



CASE 1

石油ストーブの上に洗濯した衣類を干したまま外出。乾燥した衣類がストーブの上昇気流で煽られ、衣類が石油ストーブ上に落下し火災となった。

洗濯物が落下して火災になる様子を動画で確認



郡山消防YouTubeチャンネル

「石油ストーブに洗濯物が落下」



CASE 2

灯油を補給した際にふたを閉め忘れ灯油がストーブにこぼれた。灯油をふき取り切れていないままストーブを点火したところ、灯油に引火し火災になった。



CASE 3

ストーブの燃料補給を行い、ストーブを再点火したところストーブが異常燃焼を起こし火災となった。燃料タンク内を確認すると、ガソリン(混合油)が入っており、誤給油により火災となった。

郡山消防YouTubeチャンネル

「石油ストーブ火災」ガソリンの誤給油



こんな事例も

使用中のストーブの近くで、カセットボンベのガス抜きを行い、噴出したLPGガスに引火し火災となった事例などがあります。

冬から春にかけて空気が乾燥し、火災が発生しやすい時季となります。一人ひとりが火の取り扱いに注意して火災ゼロを目指しましょう。住宅で逃げ遅れを防ぐためには住宅用火災警報器が有効です。正しく設置し、点検をしましょう。

住警器設置 孫の手作戦! 裏表紙へ ▶

住宅以外の火災 7件(15.2%)

ストーブが原因の火災 46件



住宅火災 39件(84.8%)

予防課 火災調査係

